

平成30年度 園評価	つくし保育園
○年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いをもとに事業計画に沿って園評価を行う。	
○方法・環境 ○社会的責任 ○養護・教育 ○計画・評価 ○小学校との連携接続 ○安全管理 ○災害への備え ○家庭との連携・子育て支援 ○職員の資質向上	
実践・評価・反省	
<p>・3期から4期にかけて、りんご病や溶連菌の流行が見られたが、それ以外の感染症及び疾病の流行は目立たなかった。園全体的に元気で健康な一年だった。ヒヤリハット15件・事故報告12件。0歳児で粉ミルクを飲んでからアナフィラキシー症状が見られた時の対応では救急車を呼ぶべきだった。また、4歳児の駐車場の車止めに腰かけていて転倒した際には受診をしたなど大きな事故もあった。</p> <p>・園児がエビペンを処方された事に伴い、園内でエビペンの使用方法について研修を行った。今後もそういう子どもも増える可能性もあり、子どもの健康・安全を守るためには適切な学びだった。</p> <p>・経験をしたことがない天候により、遊ぶ時間・水分補給の仕方や秋の遠足など、保育者の今までの経験だけではなく臨機応変にしていけることが子ども達の安全につながっていたように感じた。</p> <p>・目の前にいる子どもが「今、何を求めているのか」「何をおもしろがって追及するのか」を考え、さらにクラス全体として「どのような活動の仕方がいいのか」を相談してきたからこそ、安心できる居場所から外への世界へも目を向けられるようになり、今ではどの保育者にも関わろうとする子どもの姿があると感じる。職員全員がどの子にも分け隔てなく関わっている事も子どもの豊かな育ちに繋がっていると思う。運動会では子どもの姿・思いと保育者の願いが一致して進めていくことができていたので、生活発表会でもう少し子どもが作り上げようとする流れ・期間を考慮した進め方ができればよかったと反省である。</p> <p>・大人の願いと子どもの思いに折り合いをつける時には難しさを感じる。大人のはやとちりや強引な願いになっていないか。大人の願いによって‘できた’という達成感を味わえるまでサポートするのもまんざらではない。‘子どもをどう変えさせるか’ではなく、‘子どもをどう見るか’と視点を変える事も必要である。</p> <p>・保護者の抱えている悩みの本質は何か？できる事は何か一緒に考え探る事が、保護者を丸ごと受け止めることにつながるのではないか。</p> <p>・一人ひとり違ってそれでいい。違った職員が集まってそれが職員集団の力となる。誰かに気を使いながら・・・指示されながらではなく、子どものためにと一人ひとりが考え、伝え合い、楽しんで保育することを目標にしてきた。つまずき、悩むこともあったがその都度、思いを出し合って保育してきた一年だった。まだ課題もあるがこれからも自分の思いを出せて、認め合える職員集団でありたい。</p> <p>・正規職員が1名欠員、育休、育児時短を取得中の職員もいる中で臨時職員の力を借り、また、16時以降の体制の厳しい中も連携を取りながら子どもの安全を守り頑張って保育してきた。職員の中でも、まだまだ思いを素直に話せる相手とそうでない相手がいる。話せる相手とは、話を聞いてくれる人なのか？自分の思いを批判しないで受け止めてくれる人なのか？長年付き合っているからこそ、見えてくる相手の本質がある保育では様々な立場から観た子どもへの願いや姿を持ち寄る事で多角的な意見が出る。立場によっては、譲れない一線がある。言わざるを得ない時もある。そういう時にも、相手の本音・背景はどこにあるのかを探ることが必要である。</p> <p>・避難訓練では、実施日に地震・出火(どこからか)を伝え、最終避難場所を伝えて訓練してきた。各クラス職員が連携し避難経路を考え子どもたちを安全な場所へと避難させるように訓練してきた。繰り返してくうちに職員の判断力や反省での気づきも変わってきている。いつ何が起こるかかわからないからこそ子どもの命を守ることを最優先に考え、行動することが求められる。園児の避難靴を購入したのは良かった。0才児職員の避難靴も購入していく。</p>	

・甲府市の整備事業も進み、市・勤医協との話し合いを重ね建設に向けての資金繰り(補助金・勤医協からの按分・医療福祉機構・自己資金)もようやく3月に入り見え始めている。今後、建設委員会の中で寄付金等、どのように活動していくのかを考え、職員一丸となって取り組んでいく。
・来年より甲府市が中核市となるため、監査等の着眼点も変わることも有り得る。提出資料や運営に関わる事などその都度確認しながら行っていく。

・区画整備により園舎周りの変化に対応した避難経路等を確認、また反省を生かし、非常持ち出しの中見をそろえていく(職員用靴)

・建設に向けて本格的に忙しくなるが、意見を交わし合い、よりよい園舎建設となるよう努力していく。